

全国各地の行政と協業 「あそび」をきっかけにした、子育て支援・地域活性化を加速 京都市のあそび場開発運営、瀬戸内市の遊環境整備に関する協定締結

子どもの健やかな成長に寄与することを目的に、教育玩具の輸入・開発・販売とあそび環境開発を行う株式会社ボーネルンド(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中西弘子)は、行政と協業し、地域のあそびを充実させる取り組みやあそび場の開発・運営を加速させています。

2020年9月11日に京都府京都市にオープンした、多世代コミュニティ空間「京都市交流促進・まちづくりプラザ」を京都市と協業してプロデュースし、当社が指定管理者として、同施設の管理と運営も行います。また2020年8月28日には、岡山県瀬戸内市と「瀬戸内市こどもひろばパートナー協定」を締結し、今後、地域の子どもたちが外遊びを楽しむためのあそび場の整備や人材育成などについて、市と協力して取り組んでまいります。

子育て世代の課題解決 — あそび場を活用する自治体が全国で増加

公園の遊具撤去・あそび制限などから子どもが存分に体を動かして遊べる環境が減少するなか、当社は2004年に、親子と一緒に遊べる室内あそび場「キドキド」事業を始めました。「キドキド」は、走る・跳ぶなど体を思いきり動かす「動」のエリアと、創造あそびなどにじっくり取り組む「静」のエリアが一体となった、ころ・頭・からだのすべてを使って存分に楽しめる室内あそび場です。場内にはプレイリーダーが常駐し、親子のあそびをサポートしている点も支持を集めています。

このキドキドの開発や運営で培ったノウハウを活用し、自治体と協業して、全国30カ所のあそび環境の開発や運営を行っています。これらの施設は子育て中の親と子に加え、幅広い世代の方々が交流するきっかけとなり、子育て支援はもとより、地域のコミュニケーションのハブとして地域活性化につながったと評価され、近年、自治体とのあそび環境づくりの事例が各地で増えています。

京都府京都市と協業。多世代コミュニティ空間「京都市交流促進・まちづくりプラザ」を開発・運営



京都府京都市は、阪急電鉄とともに京都市阪急洛西口駅～桂駅間の線路の高架化事業により生み出される空間を活用し、西京区エリア全体の活性化を目指す「洛西口～桂駅間プロジェクト」に取り組んでいます。同プロジェクトの一環として、豊かで活力ある地域社会の形成を目指す「京都市交流促進・まちづくりプラザ」を当社が市と協働して開発し、今年9月11日にオープンしました。

当施設は、6ヶ月から12歳までの子どもたちが利用できる全天候型の有料室内あそび場「ガタゴト」、様々なイベントやアクティビティが楽しめる多目的室やライブラリー、地元の方々が集まりゆったりとした時間を過ごすことができる「プレイフル・カフェ」の3施設が一体となった空間です。

また、2024年3月末まで当社が指定管理者となり、京都市や地元のNPOと協力しながら市民の交流や子育て支援、街づくりにつながるイベントや講座を当施設で企画実施し、「あそび」で人と人、さらに人とまちをつなぐ取り組みを推進してまいります。

● 京都市交流促進・まちづくりプラザ 施設概要

- ・ 所在地：京都府京都市西京区川島五反町 18 番地の 2
- ・ 施設面積：述べ床面積 811.46 m²／敷地面積 1687.41 m²
 - 1) 南棟 1(室内あそび場「ガタゴト」)：約 400 m²
 - 2) 南棟 2(プレイフル・カフェ)：90 m²
 - 3) 北棟(多目的室、ライブラリー等)：320 m²
- ・ 対象年齢
 - 1) 室内あそび場「ガタゴト」：6ヶ月～12歳までの子どもとその保護者
- ・ 開業日：2020年9月11日
- ・ 運営管理：株式会社ボーネルンド

岡山県瀬戸内市と、「瀬戸内市子どもひろばパートナー協定」を締結。市全域で「外遊び」できる環境を整備

岡山県瀬戸内市は、子どもが遊べる場を増やしてほしいという市民の声に応え、豊かな自然を活用して、市内全域で外遊びができる環境を整える「瀬戸内市子どもひろば推進事業」を進めています。これを円滑に遂行するため、あそび環境の開発・運営ノウハウを持つ当社と、「瀬戸内市子どもひろばパートナー協定」を今年8月28日に締結しました。

本取り組みにおいて当社は、自治体と協力し、まち全体で外遊びが楽しめる「子どもひろば」の環境づくりに関して、ハードとソフトの両面でサポートします。具体的には、地域に点在するあそび場の整備や遊具の導入をはじめ、移動あそび場「プレーカー」事業の立ち上げ、市内各地で外遊びを楽しむきっかけづくり、あそびの指導者を養成する講座や研修会の実施などを行う予定です。自治体と協力して、「あそび」を起点に地域を活性化してまいります。



<瀬戸内市「子どもひろば」イメージ>
※同市提供

● 瀬戸内市子どもひろばパートナー協定の概要

瀬戸内市子どもひろば推進事業において、下記の事項を連携して行います。

- ①外遊びを通じた「子どもひろば」の開催に関すること
- ②移動遊び場「プレーカー」の導入、運行に関すること
- ③養成講座、研修会等の人材育成及び先進地視察等の研究業務に関すること
- ④子どもの視点での外遊びの環境整備に関すること
- ⑤自然災害や緊急事態発生時の子どもの遊び場や居場所づくりに関すること



行政と協業したあそび場の開発 事例紹介



・ ボーンランド プレイヴィル 安満遺跡公園(2019年、大阪府高槻市)

「市民とともに育てつづける公園」をコンセプトに、高槻市は弥生時代の遺跡を中心とした緑地を「安満遺跡公園」として整備。そこに、子どもが集い交流しながら思う存分遊ぶことができる屋内・屋外のあそび場を開発しました。多様な動きを引き出す遊具をそろえ、泥遊びなどの自然のなかで五感や好奇心を刺激するあそびを充実させ、屋内には「表現遊びエリア」も設けました。複合的・発展的なあそびから、子どもの成長を促すことを目指しています。



・ 安城産業文化公園デンパーク(2018年、愛知県安城市)

安城産業文化公園デンパークは、より子どもも楽しめる公園を目指して、当社と連携しリニューアルを行いました。屋外には幼児が砂遊びなどを楽しめる遊具や、小学生が木登りをするようなチャレンジができる国内最大級の遊具があり、屋内では天候を問わず親子で思う存分遊べる環境が整います。これがこれからの公園のあるべき姿の一つであると考え、今後も豊かなあそび環境づくりに取り組んでまいります。



・ カブッキーランド すくすくひろば(2017年、石川県小松市)

石川県小松市と協業し、子どもが小松市の良さを知り、地元への誇りを育むことができる親子のあそび場を開発しました。豊かな自然や空港、石切り場といった、市の環境やストーリーに紐付いた環境であり、遊びながら小松市のことを学べます。人口約10万人の市ですが、オープン以来3か月で約3万人が来場し、子育てに欠かせない場となっています。

【ボーンランドについて】

ボーンランドは、あそびを通して子どもの健やかな成長に寄与するため1981年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭へ向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国78ヶ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約3万5千ヶ所まで拡大しています。また、2004年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる屋内あそび場「キドキド」事業をスタート。全国21ヶ所、年間約277万人、「キドキド」のノウハウを取り入れた地方行政の屋内あそび場を含めると全国約51ヶ所、年間350万人以上の親子が訪れています。

【報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社ボーンランド 広報室 担当:村上
TEL:03-5785-0860、080-5901-3591
e-mail public-relations@bornelund.co.jp

【一般の方のお問い合わせ先(ご掲載用)】

株式会社ボーンランド
TEL:0120-358-518(月~金 10:00~17:00)